

「生駒市立病院のこれからを考える」ワークショップ



ワークショップの開催概要

24年9月14日 ワークショップ1回目：取組への理解、状況の共有

■私たちを取り巻く環境の変化とは？(レクチャー)

・社会的背景　・医療を取り巻く課題

■生駒市立病院のありたい姿・状況の共有(ワークショップ)

「生駒市立病院」のありたい姿の洗い出し・テーマにおける状況をKJ法などのフレームワークを用い、共有する

■目指す到達点

「生駒市立病院」のありたい姿が参加者間で共有ができ、各立場から見た状況が共有されて、情報量が一定になること

24年10月5日 ワークショップ2回目：課題の洗い出し

■課題の洗い出し

心理的安全性高く、議論ができる環境で、テーマに沿ってありたい姿と現状のギャップに着目し、課題を洗い出す

■目指す到達点

現在の課題について洗い出し、要因分析し、第3回目に向け、解決策の議論ができる状態になること

24年11月30日 ワークショップ3回目：解決策のディスカッション

■解決策のディスカッション

ロジックツリー等のフレームワークを用い、解決策を議論する

■目指す到達点

多様な参加者が様々な視点から解決策についてディスカッションし、提案をまとめる

25年2月9日 ワークショップ4回目：まとめ会

参加市民および医療従事者がディスカッションについて導き出した解決策について提案としてまとめ、発表する
広く公開することで、取り組みを関係者以外にも周知する

生駒市立病院の「ありがたい姿」

◎利便性に優れ、24時間365日患者受け入れが可能、患者ファーストで親しみのもてる“人にやさしい病院”

- ・生駒市民のみならず、沿線に住まう人にとってもアクセスが最高
- ・救急応需が県内随一で、乳児・小児の急病や交通事故等による怪我などにも万全の受け入れ
- ・医療体制の充実(医師不足の解消)とともに、眼科・耳鼻咽喉科の創設など、患者ファーストで誰もが通しやすい病院

◎質の高い、確かな医療の提供

- ・医療技術の高度化(ダ・ヴィンチ手術等の低侵襲手術など)、高気圧酸素療法や先進的な医療の提供による患者負担のやわらぎの追求
- ・周産期から小児へと一貫した母子医療をとおして子育て支援へのさらなる異献
- ・発達障害への対応として行政や学校・家庭、相談センター等の関係施設との緊密な連携による医療的支援の充実

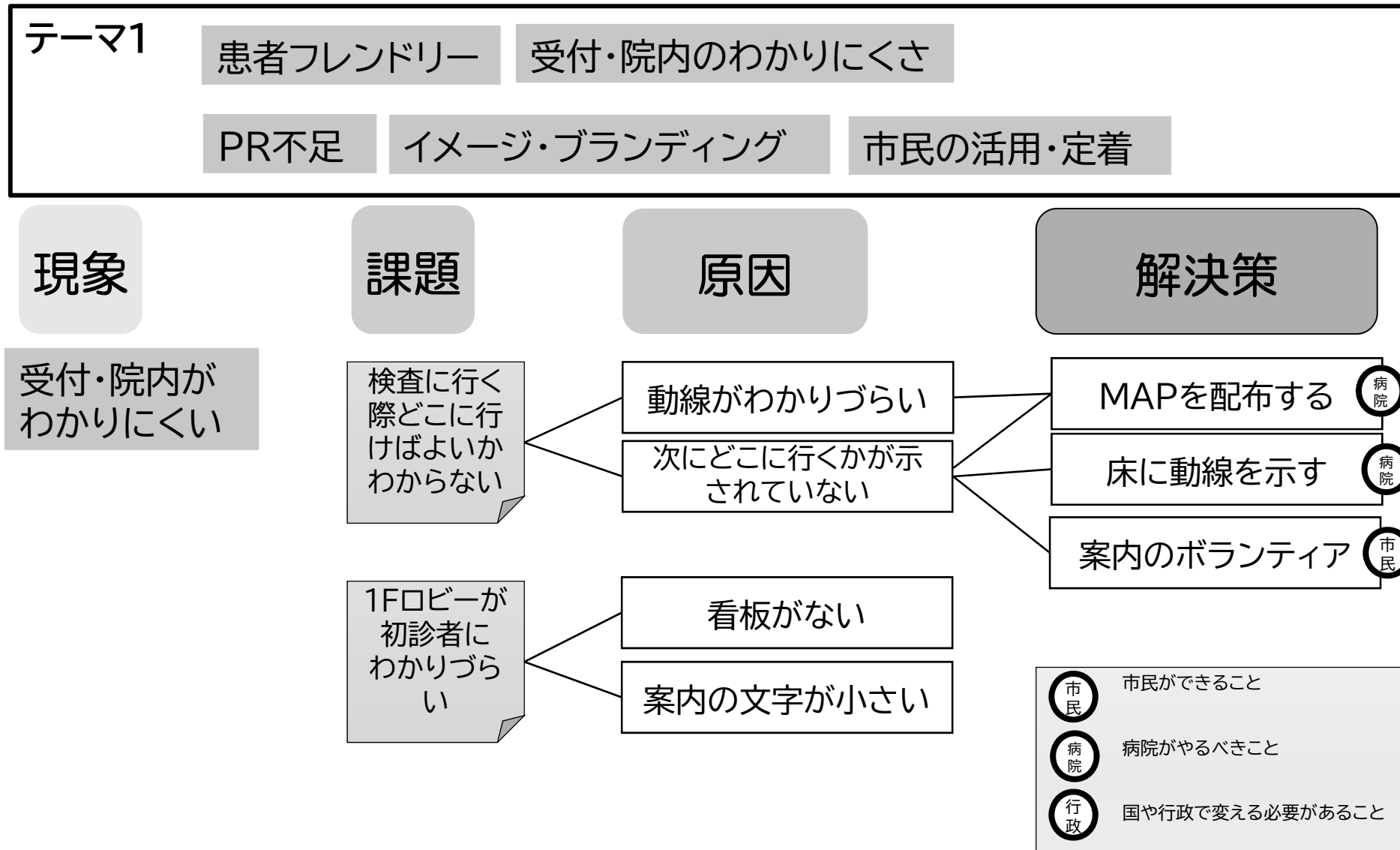
◎県北西部の地域医療の中核を担うとともに、安心・安全、市民の生命を守るとして砦としての病院

- ・地域のあらゆる医療機関や福祉施設等との強力な連携により、症状等に応じた患者誘導や在宅支援等、地域医療の要としての病院
- ・地震等災害時、感染症大規模流行等における市民の生活・生命を守る拠点施設たる役割

◎地域に開かれた病院

- ・病院の取組や市民の健康づくり等にかかる情報を、様々な広報ツールによりわかりやすく、タイムリーに発信
- ・健康に関する悩みや子育て、高齢者介護等、市民からの相談・困りごとへのきめ細やかな対応
- ・地域・市民等との積極的な交流

提案シートの作成





各チームから提言発表

提案シート

テーマ

A PR不足

課題

市立病院のイメージが市民に浸透していない！

生駒市立病院のありたい姿実現のために、以下を提案します！

市民ができること

- ・患者自身がPRする
(ファンになる)
- ・患者の情報、健康の情報、市民
同士の交換の場を作る(SNS)

病院ができること

- ・患者の満足度を上げる
- ・病院の愛称やマスコットキャラクターの募集をする
- ・病院周辺地域のクリーンキャンペーンに参加する
- ・病院外壁に電光掲示板やデジタルサイネージを設置し、病院付近の通行者に情報提供する
- ・急性期病院の役割を市民に伝える

市や行政ができること

- ・行政が持っているネットワークを活用し、情報発信する
- ・KCNのファミリーチャンネルなどに医療講演の動画や病院紹介の番組を定期放映する
- ・病院の愛称やマスコットキャラクターの募集をする
- ・病院周辺地域のクリーンキャンペーンに参加する
- ・病院外壁に電光掲示板やデジタルサイネージを設置し、病院付近の通行者に情報提供する

提案シート

テーマ

A 受付・院内のわかりにくさ

課題

院内案内図(表記)がわかりにくい

生駒市立病院のありたい姿実現のために、以下を提案します！

市民ができること

- ・案内ボランティアに応募する
- ・どこがわかりにくいかを市民目線で提案する

病院ができること

- ・コンシェルジュを置く(充実させる)
- ・総合案内所(デジタル掲載の活用)
- ・デジタル掲載(AI・スマホアプリ)を活用し、順番案内
- ・市民が活用しやすい意見箱を設置

市や行政ができること

- ・案内ボランティアをホームページ広報誌で募集
- ・市民が意見を言いやすいような意見・質問ページをホームページに作る

提案シート

テーマ

A 病院設備関連

課題

市立病院バス停がなく、駅からのアクセスが悪い

生駒市立病院のありたい姿実現のために、以下を提案します！

市民ができること

- ・乗り合わせて通院する
- ・自治体に訴える

病院ができること

- ・送迎バスを運行する
- ・徒歩で来院される人に優しい(フレンドリーな)病院にする(駅からフラットな道で来院できるよう北側に入口を作る) ※北側入口の増設は、施設改修となるため、市の役割になる
- ・自治体に訴える
- ・出張診療(訪問診療)を行う
※出張診療は、市北部や南部の近隣にクリニック等のない地域の公民館等での定期的な診療のこと
- ・職員の駐車場を近い場所にする
- ・病院の横の土地を借り、患者さん用の交流スペースや駐車場を充実

市や行政ができること

- ・駅から病院まで道をバリアフリーに
- ・駅からの道に屋根を作り、雨に濡れないようにする
- ・病院前の道路に横断歩道を付ける
- ・病院前に路線バスの停留所を作る
- ・コミュニティバスを通院に使いやすいように充実する ※コミュニティバスは経路を広げたり、便数や時間帯を充実すること
※バス利用状況については要調査
- ・駅と病院の間に市の施設を作り、通れる様にする

提案シート

テーマ

B 医師不足

課題

病院の根幹(顔)となる内科医の不足(特に常勤)

生駒市立病院のありたい姿実現のために、以下を提案します！

市民ができること

- ・(ワークショップなど)病院や市が設定する対話の会に積極的に参加する
- ・(Drを増やしてほしい、困ったことなど)市や病院にアピールする
- ・意見箱に思いを届ける。活用する

病院ができること

- ・大学に依頼
- ・同系列グループHPと連携、依頼
- ・非常勤ではなく、常勤医師を増やす
- ・病院が困っていることをアピールする
- ・意見箱をアピールする
- ・市民と対話する場を定期的に設ける
- ・人員を増やす

市や行政ができること

- ・病院内に市の相談窓口を設ける
- ・生駒市の予算を付ける
- ・病院と市民の対話に市も参加する
- ・人員を増やす

提案シート

テーマ

C 市立病院と地域医療との連携が不十分

課題

患者が相談できる場所がわかりにくい

生駒市立病院のありたい姿実現のために、以下を提案します！

市民ができること

- ・市民ボランティアによるコンシェルジュ

病院ができること

- ・地域医療機関との連携を増やす
- ・患者さんが困りごとを発信できるように体制づくり
- ・市民ボランティアに向けた環境づくり
- ・市の職員と病院職員との交換研修を実施し、地域や市のニーズを知る

市や行政ができること

- ・市民ボランティアの機運の醸成
- ・市の職員と病院職員との交換研修を実施し、病院の状況をよく知る

提案シート

テーマ

C 認知症や介護が必要な方のケアが不十分

課題

認知症や介護の専門的な対応ができる人の人材不足

生駒市立病院のありたい姿実現のために、以下を提案します！

市民ができること

- ・認知症や介護について理解を深める
- ・市民ができることをもっと具体的にあげる

病院ができること

- ・対応ができる人材の確保
- ・院内デイ
- ・地域包括ケア病棟と療養病棟の設置
- ・病院内で認知症サポーター養成講座(市民向け)
- ・オレンジドア(認知症ピアカウンセリング)を病院内に設置
- ・居宅事業所協会等(居宅)との連携
- ・医療講演において、認知症や介護に関するセミナーを実施

市や行政ができること

- ・病院と連携して、認知症や介護にかかるセミナーなどの充実
- ・オレンジドア(認知症ピアカウンセリング)を病院内に設置

提案シート

テーマ

D 診療科の充実

課題

高齢者に特化した診療科がない

生駒市立病院のありたい姿実現のために、以下を提案します！

市民ができること

- ・認知症への理解
- ・近所づきあい

病院ができること

- ・患者への病名説明配慮
- ・クリニックとの連携
- ・認知症専門外来(週に複数日程度)の設置

市や行政ができること

- ・地域包括支援センターのアピール
- ・介護予防
- ・認知症サポーター普及
→病院が場所を提供

開院10周年
特別企画!

「生駒市立病院のこれからを考える」ワークショップ

第4回 2025.2.9
まとめ会

生駒市立病院のありたい姿実現のために、以下を提案します!

A班

市立病院を
PRしていく!



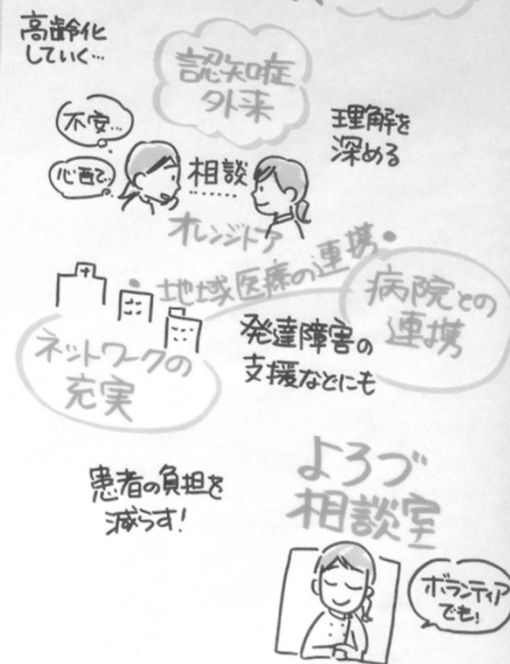
B班

医師不足
解消へ



C班

高齢者医療の
充実



D班

診療科の充実を

認知症の専門外来

高齢化で患者数が増えている



ネガティブなイメージではなく...

認知症の理解と近所づきあい



理解すると普通に接する



地域包括セタのアピール

現在の日本は
「人口オオナス期」だが...



男女フル活用の時代

潜在的な労働人口は多い!!

介護+仕事
子育て+仕事

両立できる社会へ

労働時間は少子化に深く関係している

未来の労働力へ

男性の働き方を変えていこう



ワークライフバランス
小室淑恵氏

多様な人短時間で働く!

ワークとライフの相乗効果を大いに!

地域の発展へ



遠藤清氏
生野市立病院 院長

これまでの10年
足りない所をカバー...だけでいいの?

正しい病院

できないことは正直に

いい病院をつくる

働きた病院にする

医師が集まる!

10年後の病院は



意思決定はAIになるか? しょうもない未来

個性ではなく...

行かない! 運転もあり!



小糸雅史氏
市長

今の時代10年は長すぎる...

PRは医療に限らずつながっていく

SNSなどで発信してくれと嬉しい!

市民からよく聞くお悩み
・発達障がい
・認知症
・移動支援

理解を高める

医療関係者に「ありがとう」は大きなモチベーションになる!

変化をおそれずフィードバックを

医師の定着につながる!

人員確保できることかあるのでは

当事者ではない人にどうやって届けるか?

防災をテーマに

つながっていく